

## 第17回 現代世界の系統地理的考察

## ■■ 資源と産業編 ■■

## 世界の工業を見てみよう (2)

～現代世界の現状と課題～

監修・講師

田中友也

## 学習のねらい

これまで学習してきたとおり、工業の進展は経済・社会に大きく寄与してきた。しかしながら、各地で行われている工業は歴史とともに大きく変化している。特に先進国では、産業の中心が工業から工業以外の産業に移り変わっており、日本も同様である。現在の世界の工業の様子や課題を学び、これからの工業について考えてみよう。

## 今回のポイント

- さまざまな工業の特徴と変容
- 脱工業化と新たな産業
- 日本の工業の変化と新しい取り組み

## ■■ さまざまな工業の特徴と変容 ■■

世界的な工業の大企業は多国籍企業ともいわれるが、複数の国に工場をもち生産し、世界各地に製品を販売しており、ある国の企業の活動がひとつの国にとどまらない。こうした多国籍企業のグローバル化が進んでいる。中には航空機のように部品を複数の国で製造し輸出・輸入をするなど、国を超えた企業間の協力関係がみられるものもある。

グローバル化の影響は他にもみられる。例えば繊維工業は労働力指向型の工業のため、生産拠点は先進国から人件費の安い発展途上国に移っている。一方で、20世紀以降化学繊維の生産が急増したが、新しい機能をもった新繊維の開発が先進国を中心に行われている。このように、先進国で開発・生産が行われてきた工業が、発展途上国でも行われるようになってきた一方で、先進国では新しい製品を日々生み出しているのである。

なお、いずれの工業製品も近年では中国の生産量が急激に増加しており、鉄鋼においては2016年で世界の半分を占めるまでになっている。

## ■■ 脱工業化と新たな産業 ■■

発展途上国でも工業化が進展してきた一方で、先進国の産業の中心は工業以外にシフトし、金融業や商業、サービス業などの第3次産業の割合が高まってきた（脱工業化）。グローバル化の進む中で、先進国の工業は付加価値の高い製品を作る技術を持っているかが、利益を生み出すうえで重要になってきている。また、産業構造の変化によって、これまでとは異なる製品や工業部門が必要となっている。例えば、インターネットの発達により情報通信関連産業の成

長が目覚ましいが、これによりパソコンや携帯電話・スマートフォンなど、情報のやり取りをする端末が次々と登場してきた。しかも高性能または軽量なものが登場してきており、日々進化している。

競争力を高めるためには新しい製品を生み出すための研究開発が必要となるので、企業は研究開発に多額の投資をしている。このような高い技術を必要とする産業を先端技術産業とよび、研究開発によって獲得した技術の特許権が国境を越えて取り引きされている。

### ■ ■ 日本の工業の変化と新しい取り組み ■ ■

大企業の生産拠点が海外移転することにより、取り引きをしていた下請けの工場が閉鎖したり労働者が職を失ったりするなどの問題が生じている。これを産業の空洞化とよび、日本でも問題となっている。1980年代貿易摩擦が問題になると、日本の工場がアメリカ合衆国やヨーロッパに移転した。その後、生産コストを下げるために賃金の安いアジアの国々で生産するようになっていった。そして、中国を中心としたアジアの国々は経済発展と多くの人口を背景に、それらの工業製品の販売先にもなっていった。

アジアなど発展途上国と比べ賃金に大きく格差がある以上、日本のすべての工場は閉鎖してしまうのか。前述したとおり、先進国には新たな製品や高性能の製品を開発し、他の国や企業が作れないものを生産することで競争力をつけ生き残ろうとしている企業もある。そのためには、革新的な経営を行うベンチャービジネスへの支援を進めることや、コンテンツ産業のような国際的に注目されている分野を育成することが必要であるといわれている。